



花の名: 椿  
撮影: フィールドサイエンスセンター前  
(道路の向こう側の庭園にて)

### 3月の特許相談会

※今月は鳥取地区で2回開催されます。相談をご希望の方は予約をお願いします。

#### 【鳥取地区1】

相談員: 富田憲史弁理士  
(医獣・バイオ関係他)  
日時: 3月12日(金) 13:30より  
場所: 鳥取大学事務局2階 第2会議室

#### 【鳥取地区2】

相談員: 滝本智之弁理士  
(電機・機械関係他)  
日時: 3月15日(月) 13:30より  
場所: 鳥取大学事務局2階 第2会議室

<お知らせ> 平成22年度特許相談員決定 滝本智之弁理士・富田憲史弁理士(2名継続)  
毎月の相談日は原則中旬、月初めに全学にお知らせいたします。

#### 【目次】

3月の特許相談会	1
【巻頭言】「地域の知財化で鳥取を豊かに！」	2
山陰発技術シーズ発表会 in 島根開催	3
技術移転に関わる目利き人材育成研修会開催の報告	4

## 【巻頭言】

# 地域の知財化で鳥取を豊かに！

鳥取県 東京本部  
産業振興・定住支援チーム  
主幹 山本直生

鳥取大学産学・地域連携推進機構の皆様には、平素から大変お世話になり誠にありがとうございます。鳥取県東京本部の発足に伴い新設された産業振興・定住支援チームも今月で丸2年を迎えます。その間、当本部においては一昨年8月のアンテナショップ開設や昨年9月のビジネスオフィス新装移転があり、鳥取大学の皆様にもたいへん御活用いただいているところであります。また、特に東京リエゾンオフィスを始めとする鳥取大学産学・地域連携推進機構のコーディネーターの皆様には、ビジネス交流会やシーズ発表会、あるいは研究者と県内外の企業とのマッチングなどを通じて様々なアドバイスやヒントをいただき、たいへん感謝いたしております。



山本直生氏

さて、私どもの活動の柱は首都圏の特性をよく理解した上で首都圏のビジネスと地元の産業や地域のビジネスとの結びつきを強めていく事にあります。首都圏（広域関東圏）の特徴は、特許出願件数が日本の63%を占める（特許行政年次報告書2008年版）等の知財活動の活発な地域、学術・研究開発機関が多く新技術・新産業創出のポテンシャルが高い、人口、製造品出荷額、卸・小売販売額等で日本の約4割を占める産業・経済の中心地、等の強みがある一方で、「地域ブランド」の振興を進める組合員だけが使用できるようにするための地域団体商標（鳥取県は、三朝温泉、東伯和牛、東伯牛、因州和紙の4件）の登録件数は全国比率18%程度（特許庁ホームページ）と地域資源の活用は経済規模に比べ低いレベルに留まっている、といった事が挙げられます。

このような首都圏の強みや弱みは鳥取県のチャンスと捉えればいろんなヒントが浮かんできます。中でも、県内の産業や暮らし向上の土台となる「選ばれる地域」になるための「地域ブランド」の確立はとても大切なことです。私たちは首都圏の先進的な方々のノウハウを鳥取県にもたらず活動にも力を入れております。先日はそういった方々との信頼を背景に某大手飲料メーカーのテレビCMを鳥取砂丘等の地元で無事に撮影していただくことができた喜んでるところです。

さらに、従来は工芸品や農産物が中心の「地域ブランド」もこれからは、自然や文化、歴史、科学技術等の多様な資源を包含する「地域そのもの」に視野を広げていかなければなりません。私たちはこういった「地域の知的財産化」を通じて「モノが売れ、人が訪れ、人々が誇りと愛着を持てる」ような、豊かに栄える鳥取県を実現して参りたいと思い、それには地域資源に密着した総合的な取り組みをなさっている鳥取大学との益々の連携が不可欠であると実感しています。最近も某経済誌に掲載されたように研究力トップ30（24位）にランキングされている鳥取大学の皆さんを誇りに思い、今後も皆さんのお役に立てるように頑張る参ります。





## 技術移転に係わる目利き人材育成研修会開催の報告

産学官連携プロデューサー 清水克彦  
(知的財産管理運用部門)

平成22年2月2日(火) 県民ふれあい会館において、独立行政法人 科学技術振興機構(JST)主催、本学産学・地域連携推進機構、中国地域産学官連携コンソーシアム(さんさんコンソ)協力により「技術移転に係わる目利き人材育成研修会」が開催されました。

さんさんコンソでは、産学官の連携を促進し、研究成果の技術移転を円滑に展開することのできる専門家(目利き)の育成・確保に取り組んでいます。この活動の一環としてJSTに働きかけ、「技術移転に係わる目利き人材育成研修会」の鳥取地区での開催に至りました。募集人員10名に対し、学内をはじめ、県や産業振興機構、産業技術センター、知的所有権センター、岡山大学、広島大学から計14名の方々にご応募いただきました。せっかくの機会ということもあり、希望者全員にご参加いただきました。

午前はまず、JSTで長年大学等の基礎研究推進や技術移転の促進に関わられた藤川昇先生(JST産学連携アドバイザー、フジ経営システム研究所代表)に「良い提案とは」と題し、技術移転における競争的資金の活用と申請に関するコツをご講演いただきました。続いて、技術経営などのコンサルティング業務に携わっている鈴木剛一郎先生(株式会社イノベーションマネジメントコンサルティング代表)に「S-Nマトリックス変換の活用法」と題し、研究シーズを市場のニーズに結びつける手法S-Nマトリックス変換について実例を交えて解説いただきました。午後は2グループに分かれ、鳥取大学工学研究科齋本教授、伊福講師の研究シーズ「マリンナノファイバー」を事例として、実際にS-Nマトリックス変換を体験いたしました。講師の先生のご指導のもと、グループ討議では参加者の皆様により活発な議論が交わされました。通常、2日間の研修内容を1日間に詰め込んだため、議論を尽くして完全に内容を体得するまでには至らないものの、研修の成果が今後の産学官連携活動において役立つ手応えを掴んだようでした。JSTには来年度もぜひ鳥取で開催していただきたいとお伝えしております。開催が決まりましたら、お知らせしますので、その節はぜひ今回ご参加いただけなかった方々にもご参加いただきたく存じます。



### \*\*\* 刊行物 \*\*\*

知財部門ニュース 3月号  
<36号> (通番65号、  
2010年3月1日発行)

編集・著作：  
知的財産管理運用部門

### \*\*\* 編集後記 \*\*\*

表紙「椿」の写真にはみぞれが融けた水滴が写っています。寒い日でしたが、椿の愛らしさに救われる思いがしました。3月になりました。あれこれと忙しい季節ですが、ほっとする時間をつくって元気に今年度を終え、来年度を迎えましょう。1年間ご愛読ありがとうございました。来年度も引き続きよろしく申し上げます。

### \*\*\* 特許相談 \*\*\*

相談員：佐々木茂雄(部門長・教授) TEL: 0857-31-6000(直通)(内線2765)  
山岸 大輔(副部門長・助教) TEL: 0857-31-6094(直通)(内線4072)  
場 所：産学・地域連携推進機構2F 知的財産管理運用部門  
FAX: 0857-31-5474(専用)(内線2771)  
産学・地域連携推進機構 HP: URL/ <http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/>